

報文執筆細則

一般社団法人品質工学会

編集委員会

2025 年(令和 7 年) 12 月 3 日

1. はじめに

本細則は、学会誌「品質工学」に報文を投稿する場合の執筆細則について規定する。

2. 送付形式

2.1 形式

- a. 原稿は、図表を組み込んだ形で提出する。

2.2 提出先

- a. 原稿は、以下のいずれかの方法で提出する。
 - 1) 印字出力した印刷物（2 部）を、事務局に郵送する。
 - 2) PDF 出力ファイルと編集可能な電子データファイル（MS Word ファイル、テキストファイル）を、以下のいずれかのメールアドレスに送付する。
報文投稿専用メールアドレス：post@edit.rques.or.jp
QE スクエア投稿専用メールアドレス：qesquare@edit.rques.or.jp

3. 構成

3.1 ページ設定

- a. A4 縦サイズ

3.2 段組、行数、図表イメージ

- a. 左右 2 段組み、1 段 23 文字、45 行を原則とする。
- b. 図表は本文中に印刷イメージで組み込まれている。

3.3 ページ数

- a. 報文の種別による分量は、原則として刷り上がりページで以下のページ以内を目安とする。

開発と研究, 事例研究, 実施報告, 論説, 解説	6 ページ
視点, …視点, 海外動向, グループ活動紹介, QE スクエア	3 ページ
掲示板, 会員の声	0.5 ページ
会告	1 ページ
編集後記	1 ページ

4. 原稿

4.1 主題

- a. 和文主題と英文主題を記載する。
- b. 主題は原稿の内容を具体的かつ的確に表すものとする。
- c. 続報の場合は, 主題の末尾に(第○報)と記載する。

4.2 副題

- a. 必要に応じて, 副題をつけることができる。
- b. 副題の前後には「ー」(ダッシュ)を記載する。

4.3 著者名

- a. 和文著者名と英文著者名を記載する。
- b. 和文著者名は, 主著者を筆頭とし, 姓・名を略さずに記載する。
- c. 和文著者名の右肩に「*1」のように, 所属機関等を示す脚注の記号を記載する。
- d. 英文著者名は, ローマ字表記で, 名・姓の順で記載する。

4.4 要旨

- a. 簡潔に研究の目的, 得られた主要な結果, 結論をまとめた和文要旨を400字以内で記載する。
- ※ 記載された和文要旨に基づき, 出版部会で英訳を外部依頼した文章を掲載する。

4.5 キーワード

- a. 論文の内容が推測できるような, 5～10語の英文キーワードをつける。
- b. 基本キーワード「robust quality engineering」, 「Taguchi methods」を含める。
- c. 固有技術に関するキーワードは任意に選定する。

4.6 脚注

- a. 1ページ目左段下に, 著者名に記載された脚注記号とともに, 対応する所属機関等の名称を記載する。

4.7 本文

(1) 本文

- a. 研究の目的、内容、結論を論理的な構成の下に明確な表現で書く。
- b. 文章は常用漢字現代仮名づかい（ひらがな）を用いる。
- c. 外国の地名、人名、外国書籍名などは原則として原つづりとする。ただし、一般化しているもの、術語になっているものは、片仮名書きとする。

例：「タグチメソッド」、「マハラノビスの距離」

- d. 数字はアラビア数字を用いるが、言葉になっているもの、漢字と結合して名称を表すものは、漢字を用いる。

例：「一例を挙げる」、「三角形」、「二重結合」

- e. 文章の区切りには読点「、」または「、」、句点「。」を用いる。

(2) 見出し

- a. 本文は章、節、項に区分して、見出しを付ける。
- b. 章、節、項の見出しには番号を付与し、それぞれ「1. ○○○○」、「1. 1 ○○○○」、「1. 1. 1 ○○○○」のように表記する。

(3) 図（写真を含む）及び表

- a. 図・表は、本文に出てくる順に、それぞれ一連番号を付ける。写真等は原則として図に含める。
- b. 図・表には、番号に続けて、キャプションを付ける。図の番号及びキャプションは図の下に、表の番号及びキャプションは表の上に、それぞれ「Fig.1 ○○○○」、「Table 1 ○○○○」のように英文で表記する。

(4) 数式

- a. 数式は（段組の）幅 1 段に書き、左右 2 段にまたがらないようにする。
- b. 数式に通し番号をつけるときは、右端に（ ）を付けてその中に記載する。文中で引用する場合には Eq(1)、Eq(2)のように記載する。

4.8 単位・記号

- a. 単位は、国際単位系（SI）を使用する。
- b. 用字用語、記号、符号、単位、並びに学術用語及び学術的名称（動植物の学名、病名、化合物名等）の表記は、ISO 等の標準化関連国際組織及び国内組織による基準にしたがう。
- c. 量記号は JIS Z 8202（量記号及び単位記号）、数学記号は JIS Z 8201（数学記号）、化学記号は万国化学記号、製図記号は JIS B 0001（機械製図）にしたがう。
- d. 化学物質名は原則として、IUPAC の命名法にしたがう。

4.9 謝辞

- a. 研究の過程で、何らかの援助を受けた場合は、“謝辞”の章を設け、簡潔な謝意を示すことができる。その場合、その援助者及び機関の名称並びに援助の内容等を記載する。

4.10 参考文献

- a. 本文の中で文献を参照する場合は、該当箇所の右肩に「1)」のように、一連番号を記載する。
- b. 参考文献は、本文の最後にまとめて記載する。その配列は一連番号の番号順とする。
- c. 参考文献の項目は、1文献ずつ記載する。
- d. 文献の記載方法は『SIST 02-2007（具体例は p.14～「5. 資料種類別の記述例」参照）』（<http://sist-jst.jp/pdf/SIST02-2007.pdf>）のとおりとする。

- e. 論文集・雑誌等を参考にする場合

原著者名：表題，雑誌名，巻，号，（発行年），初めのページー終りのページ
参考例)

上野憲造：転写性による難削材の切削技術開発，品質工学，1，1，(1993)，pp. 26-30.

Phadke,M.S.et al : Off-Line Quality Control in Integrated Circuit Fabrication using Experimental Design, The Bell System Technical Journal,62, 5, (1983), pp.1273-1309.

- f. 単行書1冊を参考にする場合

原著者名：図書名，出版者，（出版年），総ページ.
参考例)

田口玄一：品質工学の数理，日本規格協会，(1999)，276p.

- g. 単行書の一部を参考にする場合

原著者名：図書名，出版者，（出版年），参考にする箇所の初めのページー終りのページ
参考例)

馬場幾郎編：転写性の技術開発，日本規格協会，(1992)，pp. 36-43.

- h. 規格文書を参考にする場合

規格文書名：発行年
参考例)

J I S Z 8301 : 2011

i. 特許文献を参考にする場合

国名 種別 番号

参考例)

JP 2003-131343

特開 2003-131343

U. S. Patent 4,184,697

WO 2004002959

j. ウェブサイトを参考にする場合

ウェブサイトの引用はなるべく控える。ただし、やむを得ず引用が必要な場合には以下のように引用する。

サイト名, URL, アクセス年月日

参考例)

品質工学会, <http://www.qes.gr.jp/> 2013.11.17 アクセス.

Clausing D, Frey D: Improving System Reliability by Failure-Mode Avoidance Including Four Concept Design Strategies,

http://meche.mit.edu/documents/danfrey/danfrey_improving.pdf,

accessed 2015.8.18.

5. その他の注意事項

5.1 表紙について

a. 報文投稿時に、所定の報文投稿原稿表紙を添付する。

※ 報文投稿原稿表紙 学会 HP リンク :

<http://www.rqes.or.jp/archives/organization/contribution/contributionFrontCover.docx>

5.2 構成について

a. 最終稿の図表位置は印刷所で調整されるので、著者の投稿／修正原稿の印刷イメージと異なることがある。

5.3 キーワードについて

a. 品質工学に関連するキーワードは、できるだけ「品質工学用語」、「品質工学関連用語集」より選定する。

※ 品質工学関連用語集 学会 HP リンク :

<http://www.rqes.or.jp/library/basicKnowledge/whatsQe.html#yougo>

5.4 本文について

- a. 「～である」調で書く。
- b. 図表について本文中に記述する。
例：「Fig.1 に示す」、「Table 1 のように」
- c. 敬称（氏、先生、教授等）を用いない。ただし、謝辞では敬称をつけることを妨げない。座談会の原稿等、会話の記述では敬称をつけることを妨げない。

5.5 図表について

- a. 図表は最低限認識可能な大きさである。
- b. 図の横軸、縦軸の単位、軸名称などを英文で明記する。
- c. 図・表のキャプションは、その内容が本文を参照しなくても理解できるように配慮する。
- d. 図表はフルカラーでの掲載が可能である。ただし、色の識別性に配慮し、判読可能となるよう作成すること。

5.6 参考文献について

- a. 周辺分野の先行研究が引用されている。原則として、3 報以上の参考文献が引用されていることが望ましい。
- b. 論文として発表されている内容の場合、単行本ではなく、できるだけ原著を引用する。
- c. 入門書、解説書はなるべく含めない。

5.7 最終原稿の入稿について

- a. 編集委員会から最終原稿の入稿を求められた際には、編集可能な電子データ（MS Word ファイル、テキストファイル）を送付する。
- b. 図表データとして、編集可能な電子データ（Excel ファイル等）で数値データを送付する。